

## 論文要旨

### 1. 江 愷悌（コウ ガイテイ・中国）

「私たちはまだ「腐向け」を知らない - 『名探偵コナン』劇場版の二次創作を例として -」

キーワード：腐向け、二次創作、人物関係、ジェンダー、『名探偵コナン』

要旨：現在、男性同士の恋愛物語を楽しんでいる女性たち、いわば「腐女子」の存在感が徐々に強くなってきている。彼女たちは与えられたものを見るだけでなく、自らも作る側にも回り、男性キャラクター同士の友情やライバル関係を恋愛物語に作り変えた二次創作の制作や鑑賞に夢中になっている。

私は、彼女たちの心を引きつける二次創作に関心を持っている。そこで、人気の高い『名探偵コナン』劇場版と、それをもとにした「腐女子向け（腐向け）」の作品を照らし合わせ、キャラクター像・人間関係の変化および登場人物の取捨選択を通して、二次創作がどのように作られ、どのような特徴があるかについて考察した。

その結果、『名探偵コナン』劇場版をもとにした腐向け作品の特性を明らかにすることができた。劇場版ならではの特徴が重要であること、社会背景によるジェンダーなどの影響がかなり強いことも分かった。

### 2. トンピチャイ・パーキン（タイ）

「社名のネーミング - 人名および欧米企業のネーミングとの比較から -」

キーワード：社名のネーミング、人名のネーミング、日本の社名、欧米の社名、岐阜の社名

要旨：どの国でも、人名は様々な視点から考えてネーミングされる。しかし、ペット、ぬいぐるみといった人間以外のものに対しては、単なる呼びやすさ、可愛さなどを優先したシンプルな名前を付けるだろう。そこで私は、ネーミングという行為の中で、人名は最も重視されるものだと思った。しかし、日本企業の社名を調べたところで、日本人は社名のネーミングにも非常にこだわっていることが分かった。

本論では、第1章では、日本の人名におけるネーミングの主要なポイント（音や漢字など）と、それ以外のポイント（社会環境）を紹介する。第2章では、日本の著名企業から、タイに拠点を持つ企業と岐阜県内企業を取り上げて社名のネーミングを検討し、新たな分類基準を作成する。さらに第3章では、日本と欧米の著名企業のネーミングを比較し、その相違を通して日本の社名におけるネーミングの特徴を把握する。また、人名と社名のネーミングの比較を行い、日本人は社名も人名のように重視することを明らかにした。

### 3. ドルディネツ・イエヴヘン（ウクライナ）

「翻訳における日本語オノマトペ – 『ハリー・ポッターと賢者の石』の英語原作・中国語訳・ウクライナ語訳との比較 –」

キーワード：オノマトペ、翻訳、ハリー・ポッター、比較

要旨：オノマトペ（擬音語・擬態語）は日本語の特徴の一つとされ、他の言語と違ってあらゆる場面で多用される。元々日本語で書かれたテキストだけではなく、外国語から翻訳された作品においても重要な役割を果たす。そこで本稿では、オノマトペ語彙の和訳における具体的な役割・位置づけを系統的なデータと分析を経て検討する。研究対象として世界中で広く読まれているイギリスの作家 J. K. Rowling 作 Harry Potter シリーズの第一巻『ハリー・ポッターと賢者の石』を選択し、英語原作・和訳に加えて、中国語訳と筆者の母語であるウクライナ語訳を分析する。

第一章では日本語におけるオノマトペという現象について説明し、用語を明らかにした。第二章では、『ハリー・ポッターと賢者の石』の和訳でオノマトペ単語が含まれる文を抽出し、それに該当する英語原作・中国語訳・ウクライナ語訳の文を探し出し、比較・対照・分析を行った。

### 4. 黎 宇傑（レイ ウケツ・中国）

「明末・清初期のキリスト教受容に関する考察 – 明朝とイタリア人宣教師マテオ・リッチ、そして同時期の日本との比較 –」

キーワード：マテオ・リッチ、中国におけるキリスト教布教、日本におけるキリスト教布教、儒教

要旨：中国は「信仰がない国」だという認識は、中国社会に浸透している。それに対し、日本は奈良時代から神仏習合を行い、外来の宗教に寛容な国である。しかし、歴史を紐解くと、江戸幕府は17世紀前半からキリスト教を禁じ、宣教師と教徒に対して残忍な迫害を行った。ほぼ同じ頃、中国では、宣教師は明・清王朝の宮廷で重要な役割を果たし、キリスト教は約150年もの間、迫害を受けることなく、中国社会に影響を与え続けた。本論文では、両国の宗教に対するステレオタイプの印象と現実の矛盾に踏み込み、中国でのキリスト教布教に重要な役割を果たしたイタリア人宣教師マテオ・リッチ（Matteo Ricci 1552～1610）を手掛かりに、日本との比較を通し中国の宗教受容について研究を行った。

本論文は、まず第1章で、明朝とマテオ・リッチについて詳述する。次に、第2章で、日中両国のキリスト教布教史を比較し、その異同を明らかにする。第3章で、中国キリスト教受容について重要なポイントとなる儒教について説明する。さらに、中国の宗教の現状について自らの考えを述べる。

5. 梁 雅麗（リョウ ガレイ・中国）

「ブラックバイトから立ち上げられ - 岐阜大学の留学生に対する調査 -」

キーワード：アルバイト、ブラックバイト、留学生、対応策

要旨：第三次産業が隆盛になったことに伴い、それに従事するアルバイトも激増している。しかし、現在日本ではブラックバイトが社会問題化している。ブラックバイトという言葉は社会全体に広く知られ、さまざまな対策も講じられているが、問題はまだ解決していない。実は、ブラックバイトの被害は日本人学生だけでなく、留学生にも及んでいるのである。

本論文は、留学生はどの程度ブラックバイトを認識しているのか、実際にどのような被害を受けているのかを明らかにするために、留学生のブラックバイトの状況を調査し、更に留学生がブラックバイトの被害を受けない方策を提言する。

第1章は、ブラックバイトの問題を提起し、その特徴を記述する。第2章は、アンケート調査とインタビュー調査から、留学生のブラックバイト（アルバイトを含む）の実態を把握する。第3章は、ブラックバイトを生む社会的背景からブラックバイトへの対策を整理し、特に留学生へのブラックバイト回避の方策を示す。

6. サオカムケット・スパーワディー（タイ）

「同棲は結婚に繋がるか - タイ・日における大学生の意識 -」

キーワード：同棲、同棲から結婚、タイ・日比較、大学生の意識

要旨：男女が法律上結婚せずに一緒に住むことは「同棲」と呼ばれ、日本やタイでもテレビドラマに描かれるほど、社会一般に受け入れられている。ただし、その描き方は両国で異なり、日本での同棲は結婚に繋がり、タイではそうではないのではないかと予想される。そこで、両国の大学生が同棲に対してどのように意識しているかを調べた。

本稿では、タイ・日において大学生が同棲に対してどのような意識を持っているかの検証を目的としている。まず、同棲及び事実婚の定義、同棲のタイプについて紹介し、次に、両国の歴史的背景や現状を説明する。そして、両国における大学生の同棲に対する意識のアンケート調査をし、その結果と分析を報告する。

その結果、予想に反し、タイの方が同棲が結婚に繋がる意識が強く、日本ではその意識が薄れていることが明らかになった。この差は、日本の未婚化・晩婚化・性役割分担意識、タイの性教育の問題、両国の同棲と結婚に対する価値観に関係があることが分かった。